

移動等円滑化取組計画書

令和2年 6月30日

住 所 埼玉県さいたま市緑区美園四丁目12番地

事業者名 埼玉高速鉄道株式会社

代表者名（役職名及び氏名）

代表取締役社長 荻野 洋

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第9条の4の規定に基づき、次のとおり提出します。

I 現状の課題及び中期的な対応方針

(1) 旅客施設及び車両等の整備に関する事項

- ①全駅においてエレベーターによる1ルートを整備済であるが、エレベーターの出入口の戸にガラスその他これに類するものがはめ込まれていないことから、今後、エレベーター更新時に現在の基準に適合したものに整備していく。
- ②全駅において視覚障害者誘導用ブロックを整備しているが、旧規格の視覚障害者誘導用ブロックが敷設されているため、今後、駅大規模改修時にJIS規格に適合した視覚障害者誘導用ブロックを整備していく。
- ③全駅においてホーム上の転落防止対策としてホームドアを整備している。
現在の整備状況：7駅／7駅（100%）
- ④全駅において改札内のトイレに多機能トイレを整備している。
現在の整備状況：7駅／7駅（100%）
- ⑤保有車両全編成において移動等円滑化基準を満たしている。
現在の整備状況：10編成／10編成（100%）

(2) 旅客支援、情報提供、教育訓練等に関する事項

- ①全駅に設置している運行情報や異常時情報を案内するデジタルサイネージにおいて情報提供する内容の充実化を図る。
- ②引き続き、駅係員を対象に交通サポートマネージャー研修の受講やサービス介助士資格の取得を促進する。

II 移動等円滑化に関する措置

① 旅客施設及び車両等を公共交通移動等円滑化基準に適合させるために必要な措置

対象となる旅客施設及び車両等	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
	特になし

② 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる乗降についての介助、旅客施設における誘導その他の支援

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
人員配置の工夫	朝ラッシュ時に旅客支援に対応する駅係員を充実させるため、駅係員業務を補助する学生アルバイトの配置を継続するなど、引き続き、体制強化に努める。(2020年度)
サービス介助士資格をもつ駅係員の配置	引き続き、全駅にサービス介助士資格をもつ駅係員を原則1名以上配置する。(2020年度)

③ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる情報の提供

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
画像・音声による情報提供	全駅に設置している運行情報や異常時情報を画像・音声で案内するデジタルサイネージにおいて情報提供する内容の充実化を図る。(2020年度)

④ 移動等円滑化を図るために必要な教育訓練

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
サービス介助士資格の取得促進	駅係員を対象としたサービス介助士資格の取得促進を継続する。(2020年度)
外部機関による接遇研修の受講	駅係員を対象として交通サポートマネージャー研修の受講を継続する。(2020年度)

Ⅲ 移動等円滑化の促進のためⅡと併せて講ずべき措置

- ・ 駅係員向け接遇マニュアル（手引書）は変更ある毎に遅滞なく更新を実施する。
- ・ 資格取得や外部研修の他、職場内において接遇研修を定期的実施する。

Ⅳ 前年度計画書からの変更内容

対象となる旅客施設及び車両等又は対策	変更内容	理由
画像・音声による情報提供	全駅で運行情報や異常時情報を画像・音声を用いて案内する設備を設置することとしていたが、今年度は、情報提供する内容の充実化を図ることとした。	前年度中に設備の設置が完了し、情報提供を開始しているため

Ⅴ その他計画に関連する事項

--

注1 Ⅳには、Ⅱについて前年度と比較して記入すること。なお、該当する対策が複数になる場合には、新たに欄を設けて記入すること。

2 Ⅴには、Ⅱの欄に記入した計画に関連する計画（事業者全体に関連するプロジェクト、経営計画等）がある場合には、必要に応じ、その計画内容及び計画における当該事業者の位置付け等について記入すること。